



四ツ塚古墳群は、熊本県球磨郡錦町木上南に所在します。古墳群にはかつて4基の古墳がありましたが、現在残るのは3基です。

古墳群が立地するのは、人吉盆地（球磨盆地）のほぼ中央、球磨川の南側です。球磨川南側には、扇状地堆積物が広く分布していて、それは球磨川に流れ込む複数の支流によって浸食され、いくつかの北に向かってのびる台地状地形を形成しています。古墳群が立地する台地の西には水無川、東には免田川が流れています。熊本県最南端の前方後円墳が築かれた亀塚古墳群は、水無川をはさんだ1つ西側の台地上に位置します。

古墳群に残る3基の古墳にはこれまで個別名称がなかったことから、今回、南から順に1～3号墳としました。いずれも円墳で、墳裾が削平されていますが、墳丘部はかつての姿をよく残しています。1号墳がもっとも大きく、現墳丘部の計測で直径35m程です。

いずれの古墳もこれまでに発掘調査が行われていませんので、埋葬施設の様子や副葬品などは知られていません。でも、2号墳の墳丘北側には大きな窪みがあって、おそらくそれは盗掘坑だと思われそうですが、その位置・形状から2号墳の埋葬施設は横穴式石室であった可能性が考えられます。また、3号墳では家形埴輪の破片が採集されています。

古墳群が営まれた時期は明確ではありませんが、家形埴輪の特徴や横穴式石室が埋葬施設となる可能性などから、古墳時代中期後半から後期頃（5世紀後半から6世紀頃）だと思われます。

人吉盆地は、日本列島における前方後円墳築造域の南西端の一角にあたります。古墳時代（3世紀後半～7世紀）は日本列島に国家が形成される時代ですので、四ツ塚古墳群は錦町や人吉球磨地域の古代史のみならず、日本という国家やその領域の成り立ちを考察するうえでも、とても重要な存在です。大切に将来に伝えていく必要があります。

発行日／2022年11月3日、編集・執筆／杉井健、発行／熊本大学文学部（〒860-8555 熊本市中央区黒髪2-40-1）、印刷／シモダ印刷株式会社

熊本県球磨郡錦町 四ツ塚古墳群



(写真はすべて2022年2月15日撮影)

